

平成24年度図書館事業評価

事業名	主要事業	事業実績（ ）数値は23年度	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）
1 図書館資料の収集と保存	・蔵書構成計画に基づく計画的購入 ・資料保存計画の策定	【蔵書構成計画に基づく計画的購入】 ・図書費5,900万円を100%として、部門別資料購入率は、一般書61%（62.7%）・児童書21.7%（20%）・YA1.8%（1.8%）・レファレンス8.5%（8.5%）・地域行政資料5.3%（5.3%）・ハンディキャップサービス資料1.7%（1.7%） 【資料保存計画の策定】 ・部門別資料の保存及び廃棄について「西東京市図書館資料保存基準」を作成した。（西東京市図書館の部門とは、一般・児童（YA含む）・レファレンス・地域行政資料・ハンディキャップサービスを指す）	・平成24年度購入冊数は34,547冊（36,619冊）、全蔵書数に占める新刊書の割合は4.4%（4.7%）で、前年度より低くなっているが、これは地域行政資料の1冊単価が高かったためと考えられる。 ・今後は基準に基づき、保存資料の選定、新刊書の購入、書籍の買い替えを行っていく。	・A 資料購入費の水準を維持し、新刊購入も適切である。 ・A 保存基準の策定を評価する。今後、蔵書構成の評価も必要である。
2 施設・備品の整備	・サイクルゲートの設置（ひばりが丘図書館）	・ひばりヶ丘駅からすぐという便利な立地のため、図書館を利用しない人の駐輪場使用が後を絶たなかった。対策として、サイクルゲートを設置した結果、目的外使用が急減し、本来の用途どおり図書館利用者が駐輪しやすい環境が整備された。	・設置当初は何件かの苦情があったが、現在は問題なく利用されている。	・A サイクルゲートの設置による駐輪環境の整備は評価できる。
3 図書館の情報システムの整備	・予約棚システムの導入・運用	・23年度、カウンター業務の効率化を目的に、国の交付金を使い中央図書館に予約棚システムを導入した。その結果、自動貸出機の稼働率が上昇しカウンター業務の効率化が図れたので、24年度は保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館に導入した。自動貸出機の稼働率は58%から93%となった。	・自動貸出機の稼働率が上がったことにより、時間の余裕が生まれ、この時間を使ってカウンターでの読書相談やレファレンスサービスを以前より丁寧に対応している。	・A カウンター業務の充実 は評価できる。自動貸出機の使用に慣れない利用者への積極的で丁寧な対応を希望する。
4 利用者と情報の安全管理	・防犯カメラの設置 ・個人情報の保護	【防犯カメラの設置】 ・祝日開館及び夜間開館の拡大に伴い、防犯カメラを中央・柳沢・ひばりが丘図書館に設置した。 【個人情報の保護】 ・総務法規課が担当する情報セキュリティ内部監査が実施されたが、重大な指摘は受けなかった。	・すでに設置されている保谷駅前図書館を含め、利用の多い駅近施設の安全を確保し、安心して利用できる環境の整備に努めた。 ・利用者の基本的人権を守り、個人情報の保護を図るために必要な措置を講じている。また、個人情報の保護に関する研修を継続して実施する。	・A 安心して利用できる環境づくりへ引き続き努力いただきたい。 ・A 職員全員の意識を高める研修等の継続的取り組みを望む。
5 図書館資料の効率的な提供の推進	・正確で迅速な予約・リクエスト処理と提供 ・速やかな資料提供のための督促の効率化	【正確で迅速な予約・リクエスト処理と提供】 ・年間貸出冊数 2,449,724冊（2,481,104冊）。蔵書回転率2.9回(2.9回)で前年度並み ・予約受付件数 747,476件（719,521件）、提供件数 643,641件（624,945件）、提供率は86.1%（86.9%） ・提供の内訳は、所蔵対応 615,599件（596,948件）、購入対応17,680件（17,411件）、相互協力対応10,362件（10,586件） ・受付の方法別の内訳は、館内OPAC93,664件（89,671件）、インターネット558,563件（533,262件）、Web未所蔵予約26,062件（25,429件）、図書館窓口69,187件（71,159件） 【速やかな資料提供のための督促の効率化】 ・定例督促（返却日より45日経過した資料）件数9,588件（10,191件）、ハガキ枚数3,514通（3,603通） 予約（中1日過ぎた予約のある資料）メール督促119,710件（108,179件）	・前年度より貸出数が減少しているのは、4月より中央・保谷駅前・柳沢・ひばりが丘図書館及び新町分室が館内整理休館日を設けたことが主な要因。 ・予約受付の90.7%が、利用者自らが館内OPACやインターネットで申し込みしている。今後は、利用者のニーズに応えたコンテンツの作成を進め、満足度の向上を図っていく。 ・督促資料の未返却是825件、返却率91.4%。今後も資料回収に対し、効果的、効率的な督促を行うための方法を検討していく。	・A 予約の簡便さ、予約への迅速な対応は評価できる。 ・A 督促返却率の向上、未返却本の減少は評価できる。図書館利用モラルの啓蒙普及に工夫いただきたい。
6 市民の読書活動の援助	・図書館ホームページの充実 ・東伏見市民ふれあいプラザを活用した図書サービス	【図書館ホームページの充実】 ・PC版ホームページトップページのアクセス数 1,381,896回（1,282,729回） ・iモード版トップページアクセス数 97,241回（120,900回） ・PC版資料検索（通常の検索）のアクセス数 898,300回（826,766回） ・iモード版資料検索（図書検索）のアクセス数 54,036回（66,846回） 【東伏見ふれあいプラザを活用した図書サービス】 ・東伏見ふれあいプラザ開館日数308日（230日）、貸出件数5,485件（3,055件）、1日平均資料送付数 17冊（13冊）、1日平均キャンセル数（送付後、期限までに受取られずに図書館に戻した資料数） 1.4件（0.9件） 送付資料増加率前年度比131% キャンセル増加率前年度比161%	・ホームページのアクセス数は、スマートフォンの普及によりiモード版の利用が減少し、PC版へ移行した影響がみられるが、全体のアクセス総数は増加している。今後は、スマートフォンの普及に合わせたコンテンツに変更していく。 ・東伏見ふれあいプラザで受取を希望された資料は、利用者のプライバシー保護の観点から、1冊ずつケースに入れ配送する。図書館施設のない東伏見駅利用者には便利な施設であるが、作業の時間を要するため、翌朝の送付となり提供までに時間が掛かる。最近ではキャンセルが増え、借り出されないまま図書館に戻る資料数が増えている。	・A ホームページは基本情報資料であり、図書館の顔でもある。アクセス向上のための内容充実をさらに図っていただきたい。 ・B 東伏見ふれあいプラザでの受取希望者のキャンセル率低減のため、利用の仕組みを周知するなど工夫が望まれる。

事業名	主要事業	事業実績（ ）数値は23年度	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）
7 成人サービスの推進	・成人対象の朗読会、講演会の開催 ・同一テーマによる全館統一資料展示の実施	【成人対象の朗読会、講演会の開催】 ・朗読会開催回数2回・延べ参加者数75人（267人）、講演会開催回数3回・延べ参加者数41人 【同一テーマによる全館統一資料展示の実施】 展示冊数1,026冊(949冊)・貸出冊数2,372冊(2,166冊)・貸出回転率2.31回(2.28回)	・朗読会は合併10周年記念で実施した平成23年度に対して、例年通りに実施したため、参加者数は大きく減少した。 ・講演会は東日本大震災関連で3回実施し、被災地の被災状況から今日の状況にいたるまで現地で活動された方々を講師に招く試みをしたが、周知不足のため参加者は伸び悩んだ。参加者からは興味深いテーマと好評であった。 ・実績は前年度を上回った。要因としてテーマの工夫が利用の促進につながった。	・B 朗読会・講演会ともに、参加者を増やすための企画上の工夫や周知方法、広報の改善を期待したい。 ・A 同一テーマによる全館統一資料展示というアイデアは素晴らしく、今後の一層の充実を望みたい。
8 レファレンスサービスの推進	・We bレファレンスの実施 ・職員向けレファレンス研修の充実	【We bレファレンスの実施】 ・We bレファレンス受付件数24件（23件） 【職員向けレファレンス研修の充実】 ・職員・嘱託員対象レファレンス研修を3回（0回）実施。	・迅速で適切な回答に努めた。 ・簡易なレファレンスについて、嘱託員も対応できるようになってきている。研修については今後も継続して実施していく。	・A 内容的には申し分ないが、利用絶対数が少ないので、利用者を増やすための広報、普及に努めていただきたい。 ・A 引き続き研修の充実を望む。
9 児童サービスの推進	・学校・公共施設・地域等との連携・環境整備 ・おはなし会ボランティアの育成・受入れ・活動支援	【学校・公共施設・地域等との連携・環境整備】 ・児童関係施設への団体貸出は、利用団体数370箇所(363箇所)・貸出冊数55,390冊（50,804冊） ・図書館の時間33回(22回)参加者は1,611人。谷戸図書館を中心に、担当とのスケジュール調整が円滑にできた結果、増加した。また、図書館施設見学に関しては、小学校12校(12校)472人（507人）と参加人数は減少している。以前のような学級単位ではなく、班単位での来館が増加している。 ・職場体験受入校数は、14校（12校）受入人数120人（112人） 【おはなし会ボランティアの育成・受入れ・活動支援】 ・研修実施回数2回・参加人数1回目20人・2回目18人・延べ38人の参加があった。 ・おはなし会の実施回数は411回（395回）で、昨年よりも4.05%増加した。反面、実演者数が9団体・17人（9団体・23人）と減少している。	・児童関係施設への団体貸出は、利用団体数・貸出冊数ともに増加した。これは、学級文庫を開始した中学校があったことなどによる。 ・職場体験は、市立中学校全校をはじめ、市内在住者を含む私立中学・高校在校生も受け入れ実施した。 ・ボランティア育成のためのおはなし会ボランティアフォローアップ研修は、初めて第1期と第2期おはなし会ボランティア合同で実施した。 ・特に、おはなし会ボランティアについては活動休止をする方がいるので、第3期養成講座での人員確保が必要である。	・A 中学での学級文庫開始など学校との連携がさらに充実したことを評価したい。 ・B 養成したおはなし会ボランティアだけでなく、図書館のおはなし会に関わる全てのボランティアとの「協働の基準」を確立し、図書館のイニシャティブ発揮を望む。
10 ヤングアダルトサービスの推進	・YA世代との共同編集の実施	・共同編集会議事前説明会1回 ・共同編集会議6回 ・公募、選定した共同編集者8人（3人）と編集。 ・「CATCH」発行回数3回（3回）	・開始から2年目となったYA世代との共同編集は、共同編集者8人で行った。人数が増えたことで、更に「CATCH」の内容も充実したものとなった。担当も編集会議の進行にも慣れた。また、昨年度からの継続した共同編集者2人がいたこともあり、編集会議が進めやすかった。YA世代との会話から、彼らの世代の文化に触れることができ、紙面にも生かせた。	・A 引き続き「CATCH」共同編集を含むYA世代への働きかけを工夫してほしい。
11 地域・行政資料サービスの推進	・資料の収集、整理、保存、提供 ・地域の人材を活かした講座、講演会等の実施	【資料の収集・整理・保存・提供】 ・年間受入れ資料数3,326冊（3,361冊）、蔵書冊数88,929冊（86,890冊） ・西東京市関係新聞記事年間作成データ数5,380件（4,769件） ・西東京市関係新聞記事作成データ総数83,464件（78,084件） ・ホームページ新聞記事索引アクセス件数3,031件252.6件/月平均(2,928件244件/月平均) ・地域・行政資料室入室者数1,575人（1,441人） ・レファレンス受付回答件数1,752件（1,447件） ・庁内レファレンス受付回答件数39件（27件） ・庁内刊行物の移管資料数1,109件（1,211件） ・マイクロフィルムの複製35mm65本 ・緊急雇用対応事業を利用した資料データ整備32,000件 【地域の人材を生かした講座・講演会等の実施】 ・講演会「舟雲先生の武蔵野学」講師：廣瀬裕之氏入場者：52人満足度91.7% ・連続講座「寺子屋式古文書手習い」（連続5回）講師：吉田豊氏受講者：24人満足度89.7%	・中央図書館地域・行政資料室の役割が、資料の永久保存であることの理解を庁内、市民へと働きかけている。地域情報を必要とされる利用者増がホームページのアクセス数や入室者、レファレンス受付数に現れている。更に市民に役立つ良質な情報を収集し提供を進めるよう努めたい。 ・今後も地域の人材を活かした講座、講演会等を実施していく。	・A 西東京市に関する資料、庁内資料を図書館が収集・永久保存していること自体をさらに周知徹底し、市民、庁舎内の協力を得るよう努めていただきたい。 ・A 好評な講座も多く、一層の充実を期待したい。
12 ハンディキャップサービスの推進	・デিজੀ化事業の推進 ・研修の充実	【デিজী化事業の推進】 ・デিজী所蔵数（購入含む）が約300点増加した。作製した録音図書（デিজীব版・テープ版）のデータを都立図書館に提供し、「東京都公立図書館新作業内」および国立国会図書館の「点字図書・録音図書全国総合目録」に掲載することにより、全国規模で相互貸借の活性化を図っている。 ・「広報西東京」をテープ版からデিজীব版へ移行するための試行を始めた。 【研修の充実】 ・正確で質の高い録音物を提供するため、音訳者69人へ専門研修を13回（13回）実施し技術向上を行っている。また、新規音訳者を育成するための初級養成講座を11回実施した。	・要望のあった「広報西東京」をデিজীব版で試作したところ、テープ版利用者35人のうち1/3にあたる12人がデিজীব版に切り替わった。今後はほとんどの利用者がデিজীব版を利用できるように切り替えていく。 ・初級養成講座12人の受講者中、修了者は10人。25年度に中級養成講座を実施予定。 ・これからの育成は、デিজীব資料の作成を中心にした研修と音訳の基本・専門性を伸ばす研修を行っている。	・A 広報のデিজীব版試作などこの分野における積極的な取組みを大いに評価したい。 ・A ボランティア養成講座についても評価する。特に、音訳ボランティアのフォローを望みたい。

事業名	主要事業	事業実績（ ）数値は23年度	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）
13 子育て支援事業の推進	・「絵本と子育て事業」における健康課保健係との連携及び事業の継続	・3・4ヶ月時健康診査の実施回数 28回（28回） 3・4ヶ月時健康診査総受診者数 1,628人（1,698人） 率99%（99%） ・平均参加人数 57.8人（60.5人） ・担当職員延べ人数 31人（29人） ・読み聞かせ講師参加延べ人数 24人（26人）	・受診者に対する絵本バッグの配布数は、ほぼ目標を達成している。乳幼児とその保護者に対面し、子育てにおける絵本の読み聞かせの重要性を伝えた。併せて図書館の利用案内や行事のPRをすることで、図書館の利用促進に努めた。	・B 図書館利用に結びついているかどうかという視点からも見ていただきたい。1才半検診・3歳児検診での事業展開も期待したい。
14 子ども読書活動推進計画に基づく事業実施	・「西東京市子ども読書活動推進計画」の推進 ・「第2期西東京市子ども読書活動推進計画」中間報告に向けての準備	・読書案内を積極的に行うために、児童サービス担当者のバッジを作成した。 ・他自治体の中間報告の実施方法の調査の結果、平成25年度関係課にアンケートを依頼して中間報告をすることに決定した。中間報告作成に向けて小・中学生に実施するアンケートの内容確認をした。	・バッジの着用により子どもたちや保護者が声をかけやすい雰囲気を作ることができた。 ・内容を確認したので、平成25年度にアンケートを実施する。	・A 児童サービス担当者が分かる仕組みは効果的である。 ・B 計画作成に携わった課や市民の意見を聞く仕組みも検討されたい。
15 類縁・関係機関との連携	・多摩六都・図書館協力事業の推進 ・武蔵野大学協力事業の推進	【多摩六都・図書館協力事業の推進】 ・多摩六都・図書館共通利用カード小平市立図書館が参入し全市完了。 【武蔵野大学協力事業の推進】 ・武蔵野大学図書館利用カード貸出数が増加した。149回（129回）	・多摩六都図書館案内作成にあたり、コスト削減と内容の改訂を5市で協議し作成した。 ・利用カードの利用推進を今後も図りたい。	・A 新しい多摩六都図書館案内はコンパクトで見やすく評価できる。 ・A 利用の増加を評価したい
16 職員研修	・課内研修の計画的実施	・第3金曜日を館内整理休館日とし計画的に研修を実施した。研修の内容は、各部門のサービス内容の理解と共有化や、資質の向上を図るための担当業務の研修を行った。	・課題としては、整理休館日のない芝久保、谷戸図書館の職員や嘱託員の研修時間の確保が必要である。	・B 嘱託職員も含めた職員全体に研修機会を与えると同時に、研修内容の充実を期待したい。
17 図書館サービスの評価	・事業評価の実施及び公開	「評価の内容が細かすぎるので上位レベルのカテゴリー（業務単位など）にまとめるなど、評価項目を10個以内に抑えるべきである」との協議会からの提案を受け、事務事業評価の見直しを開始した。	・平成24年度分の評価については前年度を踏襲し評価したが、来年度に向け評価内容を協議する。	・B 評価項目が多岐にわたり過ぎるのでさらに重点化を図るなどの工夫が必要。
18 平成24年度重点事業	・予約棚システムの導入拡大に伴う運営改善の検討 ・開館日時の拡大及び定期館内整理日の設定 ・第三期図書館管理システムの検討 □	【予約棚システムの導入拡大に伴う運営改善の検討】 ・事業3を参照。 【開館日時の拡大及び定期館内整理日の設定】 ・職員及び嘱託員の資質向上を目的に、駅周辺の4館については館内整理休館日を設け、課内研修の実施や外部研修への参加を積極的に行っている。 【第三図書館管理システムの検討】 ・平成25年度にリース期間が終了ため、システムの検討を行う。	・事業3を参照。 ・館内整理日のない芝久保図書館及び谷戸図書館の研修回数が少ないことから、今後の対応が必要となっている。 ・予定している次期システムは、利用者から要望が多いWeb検索の充実を図る。	・A 事業3で評価済み。 ・A 開館時間の延長を図った点を評価したい。今後、市民のニーズを把握し、一層のサービス向上を図っていただきたい。 ・A Webへの対応を考慮したシステムの検討を評価する。あわせて、児童や高齢者にも利用しやすいシステムの導入とともに、利用者の混乱がなく次期システムに移行できるよう配慮と工夫を期待する。